

2011年3月8日

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>

NPO 法人 (内閣府) 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 代表 奥山雅久儀 かねてより療養中のところ 去る3月2日午前9時半 逝去いたしました 享年66歳でございました

(NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 池田佳世氏より 3/2の受信メール抜粋)

全国のKHJ支部の親の会にとりましては 本当に大きな存在であり 奥山代表をよりどころとして 活動が続けられた部分もあったのではないのでしょうか

昨年6月開催の周年記念講演会の翌日 里氏の案内で埼玉「けやきの会」の田口氏も同行され 奥山代表の思い出の場所 香川の親の会の原点 五色台の喝破道場を訪れハーブ園など見学 2002年6月四国で初めて開催された 香川県親の会の設立フォーラムのことなど なつかしく思い起こされていたのではないのでしょうか ころころからご冥福をお祈り致します

さて、月例会を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

### 第105回月例会ご案内

- |        |   |
|--------|---|
| 1) 日 時 | <b>3月27日 (日)</b>  |
|        | 13:00～13:30 受付  |
|        | 13:30～13:40 報告・連絡 (理事長)   |
|        | 13:40～14:10 テーマ「最後のセーフティネットの生活保護とは」(仮)<br>役員からの報告 (予定)                      |
|        | 14:10～15:00 全体討議<br>「運営委員会 (3/12 開催) の報告を受けて」<br>—これからのオリーブの会について考える—<br>休憩 |
|        | 15:15～16:30 グループ別話し合い   |
| 2) 場 所 | 香川県社会福祉総合センター <u>6階</u> 研修室<br>TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い                     |
| 3) 参加費 | 会員: 1家族 <u>1000</u> 円 非会員: 1家族 <u>1500</u> 円                                |

## 【今後の月例会】

- 4月24日(日) 香川県社会福祉総合センター (13:30 ~ 16:30)  
2011年度通常総会 ・ 父親の集い
- 5月22日(日) 香川県社会福祉総合センター (13:30 ~ 16:30)

## 【居場所活動予定】

- 3月12日(土) 第12回運営委員会 (13:30 ~ 16:00)
- 3月12日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00 ~ 13:00)
- 3月5日(土) (13:30 ~ 16:00) ・ 3月13日(日) (13:30 ~ 16:00)  
ポパイの会・パソコン教室 (指導 森下氏・井上氏)
- 3月26日(土) ポパイの会 (アイス・スケート)予定 (13:30 ~ 16:00)

## 【ポパイの会 (若者グループ) から】

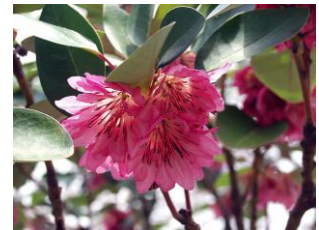
2月27日のパソコン教室は、フリーのベクターグラフィックソフトウェアの Inkscape を利用してロゴデザインの作成を体験しました。ソフト名、用語も初めて聞くものばかりでした。(ちなみにデザインは指導下さっている井上先生の得意分野)

文字を入力して、文字をパスに変更して図形とし、文字の形を変える方法を教えてもらいました。

2つの図形を組み合わせたり、切り抜いたりして、より複雑な図形を作成する方法も教えてもらい、また図形の整列方法を使って、きれいに図形を並べたり、前回行なった図形の色や輪郭線の変更方法を使ってロゴとしての体裁を整え、オリーブの会のロゴを作成しました。

最後に、作成したロゴをビットマップ形式とベクタ形式の画像として書き出し、Word書類に貼り付けて印刷をし、画質の違いなど比べてみました。

出来上がりはデザイン、色使いにしてもそれぞれの個性がでて面白かったです。



## 【前回(2/20)の例会より】

### 「発達障がいの臨床について」

[講師：五色台病院精神科 医師 伊達 健司 氏]

#### 第1 精神科医として知っていること

- 1 広汎性発達障がい (PDD) が最近では、多くなっているという考え方もある。引きこもり者の中には、PDDを含む発達障がいを持った者が多いのではないかと。
- 2 PDDの中に、ある特定の能力を持っているとか、特定の分野に詳しい人たちがいる。アスペルガー症候群は有名になってしまったが、これは言語に遅れがない自閉症と考えたらよい。
- 3 PDDの発生率  
従来は1000人に1人、2001年の英国では0.62%、最近では1%という統計もある。  
アスペルガーは0.01%である。

#### 4 PDD の増えた原因

- 診断される機会が増えたこと ○ 遺伝的なこと
- 社会環境が変化したこと（離婚、虐待など）

です。患者には男性が多い。「自分でアスペルガーではないでしょうか」という人は、そうでないことが多いようにも思える。

#### 5 PDD の特徴

会話、コミュニケーション、想像力、興味関心、こだわり、感覚知覚が過敏

#### 6 PDD の診断の要点（1）

（典型的には）3歳以前からの臨床的特徴があるが、高機能群の場合は5歳以前では識別が難しい場合がある。虐待を受けたかどうかも重要で遺伝的要因が強い（統合失調症や人格障害と間違われる場合があり、識別しにくい。）

#### 7 PDD の診断の要点（2）

母親の愛着の様子、就学後に集団行動への不適応、自閉する、内向的傾向タイプと逆に外向的タイプがある。

#### 8 PDD にまつわる話

- ① 高機能 PDD は知的に遅れがないということだけ。知的に遅れのある群の方が低い年齢で見つかり、早期対応が始まり社会に出る確率が高いかも知れない。
- ② 高機能 PDD では障害者手帳の取得ができない現状にある。
- ③ 発達障がいに関する著書が多い。学会での書籍販売ブースに多くあり、関心が広がっている。
- ④ 青年期の凶悪犯罪 「ボクはパパを殺した」事件他、PDD と犯罪との関連が話題となったが、基本的に発達障がいと犯罪とは関連がないと思われる。

### 第2 精神科の見方

#### 1 治療

早期診断、早期治療（少数の自治体で行われている「5歳児健診」は画期的なこと）  
障がい自体を治療する方法は、現在のところ知られていない。  
教育的治療、精神的治療（薬物治療が有効）

#### 2 現象

こだわり、自傷行為、タイムスリップ、今を再現されている気持ちの現れ

#### 3 SSRI の思春期への使用

パロキシチンなどは慎重投与、（イギリスで自殺行動が増えたとの報告があったため）

#### 4 PDD の薬物療法

#### 5 AD/HD 注意欠陥多動性障がい

行動の障がい、結構多い、うつ病と同じ位の率3～7%（統合失調症1%、うつ病10%）  
原因～遺伝的要因が大きい、家庭環境（親の離婚）など複雑に関係している。（被虐待）

#### 6 AD/HD の子供たちの困難さ

不注意、授業の内容が聞けない、根気がない、忘れ物が多い、親の言うことが聞けない、多動性、おしゃべり、考えるより先に手、思いつき行動（計画を立てられない）

#### 7 AD/HD の大人たちの困難さ

上司の注意・指示がよく理解できない、忘れ物、衝動買い、計画的な仕事ができない、根気よく仕事できない、ギャンブルに入りこみやすい、短絡的な行動

## 8 学校場面

席につけない、乱暴、静かでボーとしている、クラス崩壊的な雰囲気

## 9 AD/HD の治療

環境、生活スタイルを変えるのが一番、

- 心理社会教育
- 薬物療法（環境調整と両方したほうがいい）
  - ・ メチルフェデート（コンサータ）～8割の方に効果あり
  - ・ 副作用（食欲低下、成長阻害）があるのではないか
  - ・ アトモキセチン(ストラテラ)～2009年に発売、コンサータに比べて副作用が少ないのではないか

## 10 AD/HD の最近の話題

- アトモキセチン～18歳まで服用していたら、18歳を超えても服用出来るようになった。
- 行動障害に早期に対応しないと作為障がい、反社会的行動障がいに発展することがある。
- 学習障がいと併存

## 11 LD（学習障がい）について

- 精神科医はあまり扱わない  
学習が遅れていることと学習障がいは違う

## 12 LDと精神障がいはどう関わってくるのか

- 進学等によって環境が変わる
- 引きこもりの原因になり易い
  - ・「学習意欲の低下」～小6から中1で学習内容が変わり、ついていけない
  - ・「自己評価の低下」～中学校では教科担任が科目ごとに変わり、一貫した指導を受けられない状態

## 13 LDをめぐる現状

- PDD、AD/HDの影に隠れて学習障がいは影が薄くなっているのではないか
- 教育現場では特別支援がなかなか受けられない

### 第3 五色台病院の社会復帰事業

- 1 名称 「新ダイナイト・ケア棟（ブルミエ）」
- 2 目的 社会復帰に向けた支援事業
- 3 開始 平成23年2月21日にオープン
- 4 対象 統合失調症、広汎性発達障がいも含む18歳から80歳までの精神障がい者の方
- 5 その他 1日無料体験も可能  
送迎サービスもあり

以上

## 【前々回の月例会（1月23日（日））より】一部 概略

テーマ「当事者と家族が元気になるための コミュニケーション支援」

講師 香川大学教育学部 准教授・臨床心理士 竹森 元彦氏



今までこちらで2回位お話をさせて頂いています。繰り返しになるところもあるかと思いますが、今回 ひきこもっている状態であるが、どのようにしていけばいいのか具体的な手がかりになるものがあるのではないかと、また私もいちばん工夫するところで、何かポイントがお話出来ればと思い、このようなテーマにさせて頂きました。

1. ひきこもることは悪いことではない： 不登校などは、真面目な子がエネルギーを放出していつてしまう。そこでいちばん重い荷物である学校という荷物をおろす現象。そして家庭の中でエネルギーを少しずつ蓄積していく。
2. よく話を聞くことで見えてくる： 一般的な尺度で見ると、一見すると学校へ行かない怠け者、駄目な子。保護者の話から考えると、頑張ってもなかなかうまくいかないという心理が見えてくる。保護者も最初は分かっていない。子どもが無理して頑張っているのは消耗につながっていく→でも頑張らないといけないという家族の関係になっている→不登校になる→始めて子どもの気持ちが分かってくる。
3. 学校制度や社会全体の問題でもある： 特異な子どもではない一つの症状として不登校が出てくる。学校自体も変わらなければいけない。システムとか家庭の問題とも絡んでくる。これだけの子が学校へ来ていないということは、苦しいんだという声が聞こえてこないような私たちの思いこみ、子どもの視点に立てない私たちの方の子どもの見方、そういう見方をしていると親と子のコミュニケーションが一方通行になる。
4. どう不登校・ひきこもりを支援していくか：

### ◇元気になるコミュニケーション—

子どもをどのように感じているのか、親に返していく→親がそれを分かってくると子どもの声をキャッチできるようになってくる→そしてコミュニケーションがおこってくる→そしたら子どもも親も元気になってくる。

一方通行のコミュニケーションは、子どもの怒りを溜めている。ズレているのに、しているような気持ちになっていて、親に返していくと始めてコミュニケーションがとれる。ズレているならズレていると親も認識できるし、子どもも自分の思っていることが少しは伝わっているのだなと思えてくる。双方が投げたものをきちんと受け取れる。特に不登校の問題は、子どものメッセージを分かりあえてくると元気になってくる。

### ◇いちばん理解してほしいのが親—

親子の関係は深い→逆に変化につながりやすい。親が分かろうとしてくれているというのが分かると、子どもはやっていることは間違いないと自信を持つ→お互いに分かっている実感があると有難いと思ったり、親も元気になる。そういうコミュニケーションが大事。

### ◇悪循環を少し良くする支援—

どこで悪循環が起こっていて、それを少しでも良くするような手掛かりを言う人がいることが、すごく大事。

### ◇捉え方の問題—

うちの子は学校を休んで駄目だという認識、彼なりに頑張っているけど疲れ果てて休んでいるんだという認識では責められているのと守ってもらえているのと 180 度違う。子どもの気持ちに立てば親の関わり方も変わってくる。変化が出てくると子どもの関わり方も当然変化が出てくる。全くコミュニケーションがなくても、ちょっとした親の変化は子どもに伝わりやすい。

#### ◇本人がすべき問題・親のできる問題―

不登校の子に学校へ行かせる、勉強する。→親のすることではない、本人がすべき問題である。何故仕事に行かないのか→本人が行こうという気持ちになっていくことが、すごく大事。そういう気持ちになっている時、タイミングよく「こういうのがありますよ」と出してあげることが大事であり、そこまでしかできない。選択・決定は本人がしないといけないが、放っておくことではない。

#### ◇ひきこもりの家族は絡み合っただけ身動きがとれない状態になっていることが多い―

何故仕事に行かないのかと親が言う→子どもは推論付けができていて→前にも後ろにも動けないのが継続→苦しい日々が続く→怒っても駄目→泣きついても駄目→放っておいても駄目という絡み合い

#### ◇親も自分のことを語る―

自分とのたたかいになっているので苦しい→自分のなかに怒りが溜まっていく→自分自身を蝕んでいく→安心して話せる場でしゃべる→話す（放す）→自分の気持ちが分かってくる→話しているなかで見えてくる部分がある。本人に必ず伝えないといけないことと、自分たちが整理しなければいけないことが見えてくる。

自分たちが整理しなければいけないことのほうが多い。本人に伝える場合、第三者に入ってもらってよく吟味してから伝える。分かってくるとその過程が元気になってくることである。

#### ◇子どもに伝える―

子どもに何を求めているかで違ってくるので、客観的に手紙を書いてみる。

- ・ 定年など目安になる。本人はあまり現実が分かっていない。
- ・ 出口を明確にする。委ねる。誰が本人に宣言するのが key になってくる。
- ・ 現実を当たり前のこととして伝える。本人を尊重して心のこもった手紙を書く。

◇内発的な自発的なエネルギーが溜まってきたとき動きが出てくる― 操作的、支配的コミュニケーションではなく、個を尊重した本人の気持ちを理解したコミュニケーションでなければならない。

#### 5. 不登校は出口があるが、ひきこもりは明確な出口がない：

出口に向かってみんなで知恵を出し合う。出口を明確にし、本人の成長力に委ねる。本人の自信にもなる。第三者は相談者の生活と無関係だから話せる。無関係だから聞くことができる。絡まった家族関係が緩み、本人も相談に行けるようになると、どう支援が必要なのか少しずつ分かってくる循環が生まれてくる。

以上